

B-165 近世以降に於ける農民服飾の研究・文献にみる衣生活(二)
和洋女大文家政 鷹司 諭子

目的 実物資料の求めにくい近世期の農民の衣生活を、文献資料を中心に考察を行い、その実態を究明することを目的とする。殊に今回は、先年発表した東北地方に続くものとして、関東・甲信越から、滋賀県湖北部までをとりあげた。西限を湖北としたのは、琵琶湖が本州における東西文化の境目であると考えられるからである。

方法 主に、地誌・郷土誌・紀行誌・その他幕藩法・隨筆・日記を資料とした。なお才二次世界大戦以前の資料で旧幕藩時代の頃から変化がないと推せられるものも参照した。

結果 当地域は、織縫製品を含む経済上重要な物の生産地をもつため、多くの山岳を含む広い地域であるが早くから相互間の交通路がひらけていた。殊に近世には生産奨励と共に交通路も発達・同時に都会文化が流出するようになっていった。又出稼による文化の持帰りもある。それは衣生活の面でもあきらかにあらわれた。紡織業の推進は名産品を盛んにする反面、都会の流行が厳しい禁制にもかかわらず和持込まれて、野よりも良い着物をも求める風がおこってくる。そして一方山深い僻村では、目ぼしい産物もなく、道もないようなところまで、こうした世上の動きとは無関係な衣生活が営まれている。当地域の衣生活にみる二面性を明らかにした。